

授業改善のためのチェックリスト(PE)

過程	項目	自己評価 ✓
計画 (授業前)	<ul style="list-style-type: none"> ●指導計画を立てる段階で確認すべきこと ①目標 <ul style="list-style-type: none"> ・児童に身に付けさせたい運動能力や態度が明確にわかる目標となっているか。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に合った目標となっているか。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・教員ガイドの「学習成果」をもとに目標設定しているか。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ②実態把握 <ul style="list-style-type: none"> ・目標に準じた子供の実態が把握されているか。 	
導入 (授業中)	<ul style="list-style-type: none"> ●導入では目標の確認をし、児童の意欲を高める ①活動内容の説明 <ul style="list-style-type: none"> ・簡単に活動内容を説明し、児童は授業の見通しをもつことができたか。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ②目標の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を短い言葉でわかりやすく児童に提示できたか。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ③児童の服装確認、健康観察 <ul style="list-style-type: none"> ・運動に適切な服装であるか、運動できる健康状態であるかを確認したか。 (運動しやすい服装か、ポケットの中に何も入っていないかなどを確認する) 	
ウォームアップ (授業中)	<ul style="list-style-type: none"> ●ウォームアップには、けが防止、主運動へのスムーズな移行、より効果的に運動能力を向上させるなどの役割がある ①個々の能力に応じた適当な負荷でウォームアップ、ストレッチを実施できたか。 (ストレッチはいつも同じものを実施すると、実施漏れがなくなる) 	
	<ul style="list-style-type: none"> ②主運動につながる系統的な内容を用いて予備運動を実施できたか。 (主運動より少し簡単な運動や主運動につながる運動、前時の活動内容などに取り組むとよい) 	
主運動 (授業中)	<ul style="list-style-type: none"> ●学習課題を解決するための方法を工夫する ①運動が苦手な児童のために、より易しい段階へ戻って活動できる具体的な場の設定をしたか。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ②運動が得意な児童のために、次の課題やより発展した段階に進んで活動できる具体的な場の設定をしたか。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ③児童の知識理解を深める(体力・技能を高める)ために、必要な資料、教材、教具等を準備・活用したか。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ④活動量を落とすことなく、活動しながら、または休息の中で、児童の思考力や判断力を高める工夫をしたか。 (児童が自身のパフォーマンスについて振り返る機会、仲間の姿から課題解決のヒントを得る機会、勝利のために仲間と作戦会議する機会など) 	
	<ul style="list-style-type: none"> ⑤活動量を落とすことなく、活動しながら、児童の表現力を高める工夫をしたか。 (児童のアイデアで学習の場を設定する機会、振り返りや作戦会議をもとによりよいパフォーマンスを実施する機会など) 	

	<p>⑥活動量を落とすことなく、活動しながら、児童の協調性を高める工夫をしたか。 (ペア活動、グループ活動、チーム戦、話し合い、学び合いなどの場の設定)</p>	
	<p>●児童の社会性を育むような指導をする ①一人一人の児童に、自己肯定感が高まるような具体的な言葉がけができたか。 (できたら褒めるではなく、できるようにして褒める。できるようにして褒めるためには、意図的・計画的な指導が必要不可欠である。)</p>	
	<p>②子供たちの対話的な学び合い、助け合い、励まし合い、称賛し合う場を意図的に仕組むことができたか。 (教師は常に児童の手本として、児童の姿をよく見て、積極的に具体的で肯定的な言葉がけをするべき)</p>	
	<p>●体力・知識及び技能を効果的に高める場を準備する ①体力向上のために活動の順番や内容は適切であったか。 (教員ガイドをもとに、活動の取捨選択、追加、代替をするとよい)</p>	
	<p>②自己流の指導に固執せず、専門書、インターネット、同僚等の教えから、最も効果が高いと思われるもので授業することができたか。</p>	
	<p>③汗が出て、息が上がるくらいの運動量が確保できたか。 (授業の3分の2程度は運動している時間になるとよい)</p>	
	<p>④教師は常に全体が見える位置にいたか。 (個別指導の際も、全体に背中を向けない立ち位置にする)</p>	
	<p>⑤効率よく運動できるように指示を出すことができたか。 ・整列する場所や整列の方法は適切であったか。 (ハンドサインや笛の合図などを予め決めて児童と共有しておくとい)</p>	
	<p>・待ち方の指示は適切であったか。 (座って待つ、仲間のパフォーマンスのよいところを見つけるなど)</p>	
	<p>・活動内容の説明は明瞭であったか。</p>	
	<p>・グループ分けの方法は適切であったか。 (列になってから分ける、人数集めゲームを通して分けるなど)</p>	
まとめ (授業中)	<p>●本時のまとめでは、目標の達成度の確認と、次回につなげる振り返りをする ①本時の目標は達成されたか。 (授業中の児童の様子、児童個々のフィードバックシート、挙手による一斉調査などで確認する)</p>	
	<p>②児童による自己評価や児童同士の相互評価から、児童が新たな課題を求めるなど、学習への主体性が高まったか。 (児童がしっかりと本時の目標を把握・理解していなければ、適切な評価は望めず、児童の主体性も高まらない)</p>	
自己評価 (授業後)	<p>●児童のフィードバックや教師の自己評価から、次回に向けて授業改善する ①教師が取り入れた目標達成のための手立ては有効であったか。</p>	
	<p>②児童のフィードバックから、次回の授業に向けての改善点や有効な手立てを見出すことができたか。 (適切に自己評価し、授業改善できる教師は、必ず授業力が向上する)</p>	